

令和7年ホヤ類調査結果速報 No. 6

令和7年11月25日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/hakodate/index.html>】

11月13日に渡島管内八雲町黒岩地区で耳吊ホタテガイ付着物調査を実施しました。また、11月20日に同町内浦地区沖合で海洋環境調査を実施しました。

結果概要

・ホヤの新規付着はなし。

5mm未満の最近付着した個体は確認されませんでした。

・ホヤの付着数はかなり少ない

11月としては昨年を上回るものの、平年を大幅に下回りました。

・水温は11°C前後であり、産卵は終了した見込み

・今年のクロロフィルa量(*)は平年並みに推移

クロロフィルaとはホタテガイとホヤの餌である植物プランクトンの量の指標です。

写真 ホタテガイに付着したヨーロッパザラボヤ 令和7年11月13日 八雲町黒岩地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された
令和7年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：11月13日、調査場所：八雲町黒岩沖、採取数：上中下層 各5枚]

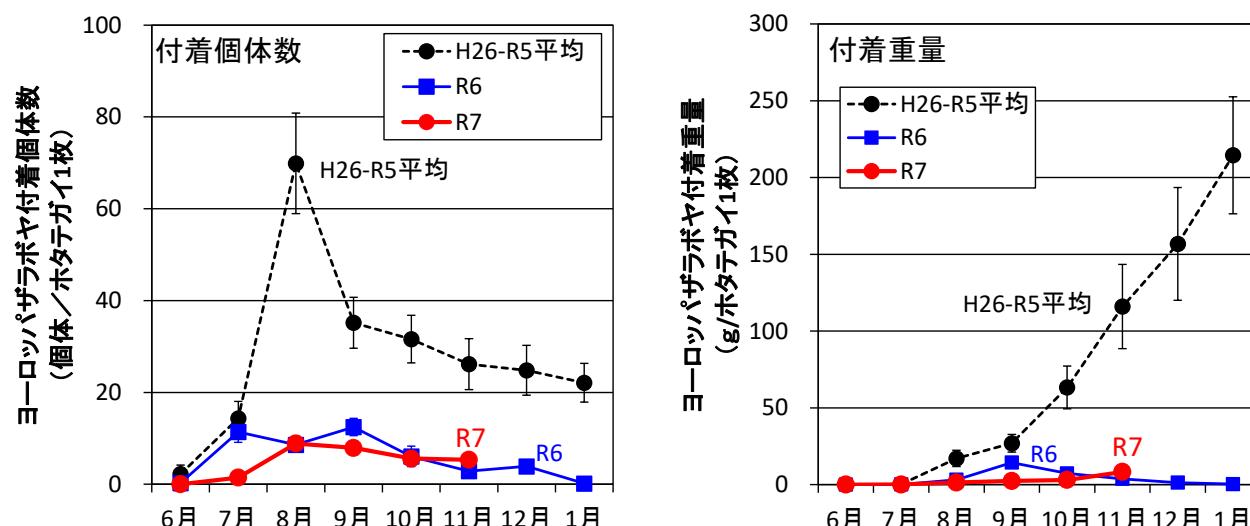
ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（写真）。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ1枚あたり5.3個体であり、昨年（2.6個体）を上回りましたが、平年を大きく下回りました（表1、図1）。例年と異なる調査地点ですので、単純に比較はできませんが、今年は昨年に引き続き、付着水準は低かったと考えられます。平均体長は21.2mmと昨年（22.0mm）と同程度でした（図2）。なお、5mm未満の小型個体は出現せず（図2）、新規付着はなかった模様です。

耳吊り貝が垂下されている深度層（5～15mと仮定）の今年の海洋環境を振り返ると、水温は8～10月にかけて平年よりも高く、特に9月はH26年以降で最も高くなりました。ホヤの産卵開始水温を超えた時期は、昨年は6月でしたが、今年は平年と同じく7月でした。現在は11°C前後であり、ホヤの新規付着も確認されなかったことからも、ホヤの産卵はほぼ終了したと考えられます。クロロフィルa量は平年並みですが、昨年よりも低い月が多かったのが特徴でした。

表1 付着生物調査結果（八雲町黒岩地区：令和7年11月13日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	44.2g	33.4g	25.9g	34.5g
ヨーロッパザラボヤ	6.6g	8.9g	9.4g	8.3g
その他	37.6g	24.5g	16.5g	26.2g
ヨーロッパザラボヤ個体数	5.0個体	4.4個体	6.6個体	5.3個体
令和6年11月（R6.11.20）の個体数	1.6個体	5.6個体	1.4個体	2.9個体
令和5年11月（R4.11.15）の個体数	1.6個体	5.6個体	0.2個体	2.5個体
令和4年11月（R4.11.28）の個体数	14.6個体	34.6個体	26.2個体	25.1個体

図1 ヨーロッパザラボヤの付着量の季節変化



左：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

右：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲町黒岩地区：令和7年6～11月）

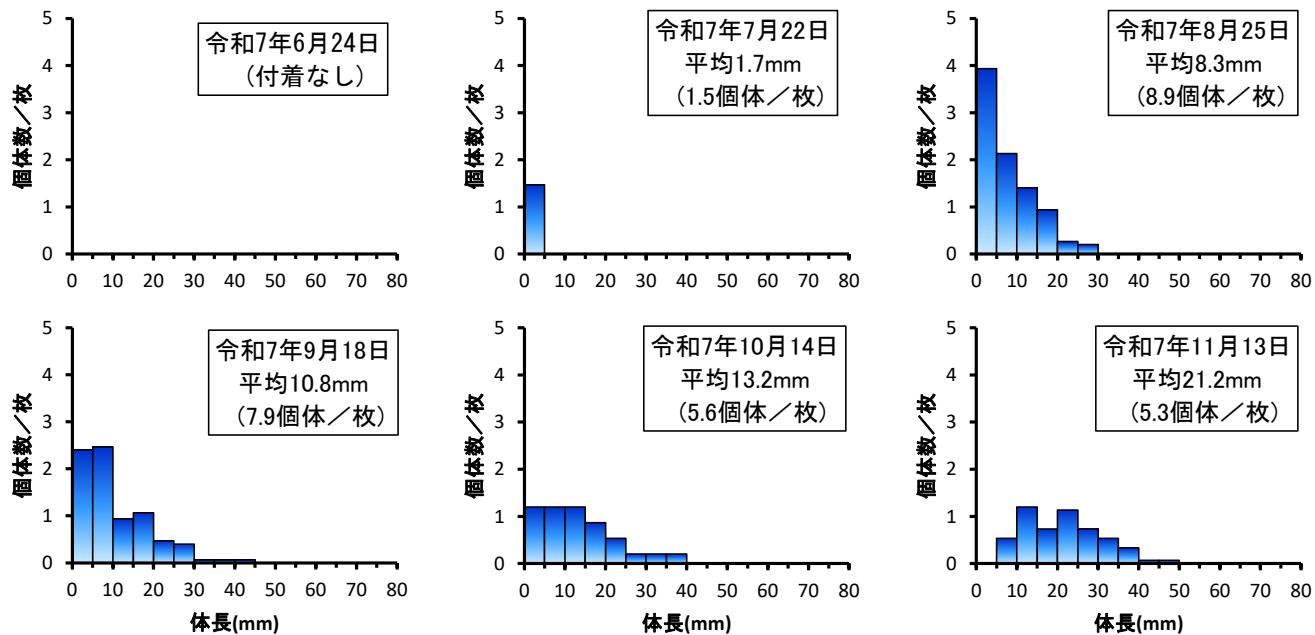


図3 調査地点近傍（八雲沖3マイル）の6～11月の水温とクロロフィルa量（深度5～15m層の平均値）※クロロフィルaとはホタテガイとヨーロッパザラボヤの餌である植物プランクトンの量を表す指標です。

● : R7年、▲ : R6年、× : H26-R5平均 --- : ヨーロッパザラボヤの産卵開始水温 (13°C)

